



ひろ
かわ
まち
広川町

美しい匠の技。
伝統と人が織りなすまち

久留米^{かすり}紘(国指定・重要無形文化財)

経糸と緯糸の紘を合わせて、緻密に織り上げられてゆく久留米紘。200年の歳月を重ねて高い評価を得られるまでに成長したその技術は、広川町に残る13軒の織元で現在でも継承されている



■ 弘化谷古墳 (国指定史跡)
国指定史跡の「石人山古墳」と共に八女古墳群に属し、丘陵を歩いて古墳巡りが楽しめる。隣接する「広川町古墳公園資料館(こふんピア広川)」は入場無料



■ 太原のイチョウ
昭和58年の町制施行30周年を記念し、町の木として制定されたシンボルツリー。黄金色に輝く秋の絶景を一目見ようと多くの人が訪れ、話題を集めている



■ 逆瀬ゴットン館
県内最大級の直径7mの水車がシンボル。その動力を使って作られた地元の米やそば粉の販売のほか、手打ちそばも味わえる。秋には「新そば祭り」を開催



■ 里の駅 広川くだもの村
地域の生産者が育てた、イチゴやブドウなどの町の特産フルーツや農作物を取り扱う直売所。秋にはスローフードフェスタ「秋の収穫祭」が人気



■ 広川サービスエリア
インターチェンジに併設されており、高速道路利用者以外も立ち寄ることができる。24時間営業のフードコートや旬のフルーツを販売するコーナーもある



■ 小椎尾地区の段々畑
筑後川の支流、町名の由来ともなった広川の上流にある小椎尾地区。寒暖の差を利用した茶葉の栽培が盛んで、山の谷あいにはのどかな段々畑の風景が広がる

■ イチゴ狩り体験
フルーツのまち・広川でイチゴは一番人気の特産物。「里の駅 広川くだもの村」では1月から4月まで、「あまおう」をはじめ、5種類のイチゴ狩りが楽しめる



■ 奥八女茶
寒暖差のある山里で栽培される奥八女茶は、色濃く風味がまろやかで格別と評価が高い。製造・販売を営む「茶の葉堂」などでは、振る舞い茶が味わえる

■ ガーベラ
西日本一のガーベラ生産量を誇る広川町では、約160品種がハウスで通年栽培されている。毎年4月、広川サービスエリアでは「広川の日 ガーベラ祭」が開催される



■ 広川町産業展示会館 (ひろかわ藍彩市場)
久留米絨や竹細工などの伝統工芸品を中心に、地域の特産物を展示・販売。毎年9月には九州最大級の絨の催し「広川かすり祭」が開催され、会場はひときわ華やぐ



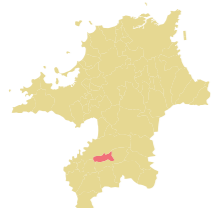
■ 八女すだれ
竹の産地である八女の特産工芸品として、明治時代から竹ひごを使った伝統技法で作られ続けている。平成26年、福岡県知事指定特産工芸品に指定



■ 竜光寺公園
季節の木々を眺めながら、池の周りの散策などが楽しめる。春は桜の名所としても知られ、園内には木製アスレチック、ジョギングコースもある

活力で育む、
フルーツと工芸の里

■ 問い合わせ
広川町役場
八女郡広川町大字新代1804-1
☎0943-32-1111 (代表)
ファクス0943-32-5164 (代表)
<http://www.town.hirokawa.fukuoka.jp/>



ボランティアによる高齢者への買い物支援

町民が主役のまちづくり
広川町では、地域の課題解決のため、地域に住む一人一人が主役となる地域コミュニティ推進事業を進めています。「地域でできることは地域で」を将来像として掲げ、いつまでもこの地で暮らしたいと思える地域づくりを住民自らの手で進めています。



広川まち子ちゃん

久留米絨の着物とイチゴの「あまおう」を付けたベレー帽をかぶるオシャレな女の子

福岡県の南西部に位置し、東と南は八女市、北は久留米市に大きく隣接している広川町。九州自動車道の広川インターチェンジも有しており、交通の便にも恵まれています。自然豊かな大地の恵みを受け、イチゴ・ブドウ・ナシ・モモ・茶などの栽培が有名。近年は、ガーベラ、電照菊などの花卉栽培も盛んです。また、久留米絨や竹細工などの特産品も伝統工芸として連綿と受け継がれており、こうしたふるさとの宝を次世代へと継承しながら、魅力あるまちづくりが進められています。



「久留米餅は木綿100%の肌触りや、素朴でいて精巧な柄の美しさが魅力です」と代表理事の富久公博さん



毎年9月に開催される「広川かすり祭」。特売会やファッションショー、工房巡りなどが楽しめるとあって、全国から久留米餅のファンが訪れ、リピーターも多い



久留米餅の餅の柄を生み出す上で肝となる「くくり」作業。今では紡績会社から仕入れた生糸を白い糸に仕上げている「精練」作業も組合の工場で行っている

久留米餅広川町協同組合

手仕事の技、地域の宝を未来へ紡いで

久留米餅の伝統の継承と発展を目的に、町内の織元と問屋によつて昭和29年に発足した「久留米餅広川町協同組合」。現在、組合員は14人です。

久留米餅は、図案から最終仕上げまで細かいものを含めると約40もの工程があり、昔は織元だけではなく「くくり」などの工程は分業者がそれぞれ担っていました。

「餅を製造する上で重要な工程を担う分業者の高齢化が近年課題となっており、分業者の大きな負担にならない方法を町と一緒に探しています。図案師が担っていた餅の図案作成は、3年前から久留米工業高等専門学校が開発したソフトでパソコンを使うことができるようになりました」と代表理事の富久公博さん。作り手と町とが連携し、2000余年継承されてきた伝統工芸を絶やさないうつ努めています。



「広川まち子ちゃん」は、町内の子どもたちにも大人気



町の特産「あまおう」を生地とクリームに練り込んだ甘酸っぱいスイーツ「初恋ぶっせ」。発売して6年目、1万5千個を売り上げた年も



和気あいあいとした雰囲気の中、広川町商工会青年部の皆さんと「広川まち子ちゃん」

広川町商工会青年部

異業種のアイデアを生かしながら地域の発展に貢献

地域経済団体の青年部門として昭和45年に設立された「広川町商工会青年部」。45歳までの経営者や後継者を中心に、52人のメンバーが、町おこしなどの企画運営に携わっています。

これまでに、町の公認キャラクターである「広川まち子ちゃん」の誕生や、まちおこしスイーツ「初恋ぶっせ」の商品開発など、多彩なアイデアを実現。また、空き缶のプルトップ集めを呼びかけ、車いすを寄付したり、東北や熊本の本震災チャリティーを自主企画するなど、多岐にわたり活躍しています。

「町の発展につなげるため異業種の間と交流し、アイデアを出し合っています。その経験は自分たちの仕事にも役立ちます」と、部長の久保田健太郎さんは語ります。地域との関わりを大切に、広く学びながら、町の活性化に貢献しています。



特産の「あまおう」を使って一つ一つ丹精込めて手作りされるイチゴ大福。正月前には黒豆やコンニャクなども販売



人気のごぼうコロケは、直売所や地域のイベントで販売するたびに、毎回900個ほどが売り切れる



女性農村アドバイザーで構成される「つくし会」の皆さん。代表の渡邊悦子さん(写真前列中央)。「根強く、すくすく伸びて、人に、地域に尽くす」がモットー

つくし会

地域を元気に食で盛り上げる「まちのお母さん」

地域の活性化や女性の社会参画などに取り組んできた町内の女性農村アドバイザー8人が、地域おこしのため、平成22年に結成した「つくし会」。

「町の特産品の『あまおう』を使って手作りした、イチゴ大福が『いちごまつり』などで大当たりしたのが始まりです。その後、生ごぼうの食感を生かした『ごぼうコロケ』を思いつき、毎月1回農協の農産物直売所で揚げたてを店頭販売したところ、とても好評で行列ができるほどになりました」と代表の渡邊悦子さんは笑顔で語ります。

明るく活発、料理上手なつくし会の評判は広がり、福岡県留学生会を招いた交流会での大福づくりや、知事公舎で手料理を振る舞うなど、活動は町外へも広がりました。「まちのお母さん」の役割を楽しみながら、地域を元気に盛り上げています。



部長の平城重知さんは、夢だった農家に5年前新規参入し、イチゴを栽培している



近隣地区の青年部とソフトボールなどのスポーツ大会で親交を深め、地域を盛り上げていく



地域の小学生を対象とした稲刈り体験を実施。「農業の面白さを知って、興味を持ってほしい」と平城さん

J A ふうおか八女青年部 広川地区

農業の啓発と食育活動で地域を照らしたい

平成9年に結成された「J A ふうおか八女青年部 広川地区」は、地域農業の発展を目的に、45歳以下の若手農業者43人によって運営されています。

地域の小学校3校の5年生に田植えや稲刈りを体験してもらい、収穫したお米をプレゼントするという食育活動に取り組みんでいます。

「自分の手で植えたお米を収穫することで、食べ物を作る大変さ、素晴らしいさを感じてもらえたらうれしい。2年前からは特別支援学校の生徒たちとの田植えもスタートしており、これからも継続していきたい」と部長の平城重知さん。

地元で開かれたJ A主催の祭りでは、企画にも携わり、自らも出店しました。地域の人たちに農業の面白さ、大切さを伝えながら、地域に根付いた活動を進めています。